

# 風

神戸大学  
広報誌

kaze

Kobe University  
Public Relations Magazine

Dec.2020

Vol.16

特集1 パンデミックの脅威を乗り越え、課題解決を図るために  
ウィズコロナ時代の大学の役割を模索  
特集2 カエルに捕食されても体内から生還する昆虫を発見  
昆虫の生態研究から広がる可能性



読者の皆様へアンケートご協力をお願い

回答者みんなに  
プレゼント  
壁紙使ってね!



スマホ用“うりぼーカレンダー壁紙”プレゼント!

神戸大学広報誌「風」をお読みになったの感想をお聞かせください。  
今後の誌面作りの参考にさせていただきます。アンケートの所要時間は3分程度です。



スマホ用神戸大うりぼーカレンダー壁紙(2021年上半期)  
アンケートはこちらからアクセスできます。



 神戸大学

発行日：2020年12月

編集・発行：神戸大学 総務部広報課 〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5083 FAX.078-803-5088

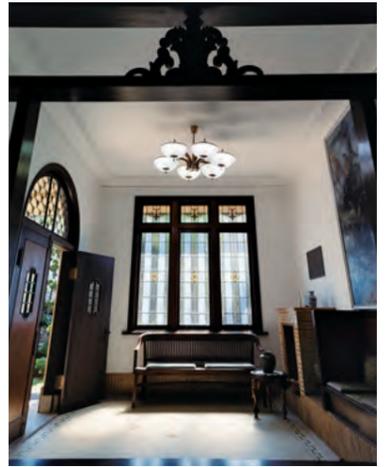
アートディレクション・デザイン：有限会社ティクリエイション / 印刷：能登印刷株式会社

©2020 神戸大学 ※本誌に掲載されている記事、写真、図表の無断転載を禁じます。

ロイ・スミス館(旧大谷家住宅)



勤続50年記念式での  
ロイ・スミス先生 [1959 (昭和34)年]



玄関ポーチ



ステンドグラスと日本庭園

ロイ・スミス館は、神戸大学本部から西へ1.3kmほどに位置し、護国神社の坂道を登った長峰山の中腹にある(神戸市灘区篠原北町4-11-5)。1935(昭和10)年に神戸の貿易商・大谷茂の邸宅として建てられたスパニッシュ瓦葺き木造2階建寄棟造の明るくモダンな建物であり、設計は御影公会堂や甲南漬資料館(旧高嶋家住宅)などで知られる清水栄二が担当、施工は高垣工務店による。外観はハーフトィンバーや三連窓など西洋風の意匠で、内部には神戸らしく帆船など海をモチーフにしたステンドグラスが要所に配され、敷地南側には美しい日本庭園が広がる。戦後一時カナディアンアカデミーの女子寮となった後、1960(昭和35)年に神戸大学の招聘外国人教師であったロイ・スミス(Roy Smith)先生の住居となり、現在は公益財団法人神戸大学六甲台後援会の事務所として使用されている。2011(平成23)年10月に国の登録有形文化財となった。

名前の由来となったロイ・スミス先生は、1878(明治11)年6月アメリカ・イリノイ州に生まれ、イリノイ文科大学でB.A. (Bachelor of Arts)、ニューヨーク大学でM.C.S. (Master of Commercial Science)、シカゴ大学でM.Ph. (Master of Philosopher)の学位を取得し、1909(明治42)年9月に31歳で旧制官立神戸高等商業学校(現神戸大学)に赴任して太平洋戦争中の一時帰国を経て1968(昭和43)年3月に89歳で神戸大学を退官して本学最初の外国人「名誉教授」となるまで、明治・大正・昭和にかけて半世紀以上の長

きにわたる教員生活を送り、本学史上最長の在職期間を誇る教官となった。スミス先生を慕った多くの教え子たちは、1960(昭和35)年に協力して先生のために旧大谷家住宅を購入(財団法人(当時)神戸大学六甲台後援会の名義)し、11月21日にロイ・スミス館(THE ROY SMITH HOUSE)命名式と披露パーティを挙行。スミス先生は退官帰国までの最後の約8年間をこのロイ・スミス館で過ごした(1969(昭和44)年6月逝去)。現在六甲台本館前庭にある先生の胸像や社会科学系図書館大閲覧室にある中山正實作の肖像画も教え子たちの寄附であり、スミス先生への敬愛の念が込められている。

(大学文書史料室 室長補佐 野邑 理栄子)

特集1 パンデミックの脅威を乗り越え、課題解決を図るために  
ウィズコロナ時代の大学の役割を模索



新型コロナウイルス感染症(COVID-19)(以下「感染症」という)は、その流行が世界各国へ拡大し、国内でも感染拡大が社会に深刻な影響を及ぼしている。

神戸大学では、感染症の脅威を乗り越え課題解決を図るため、本学で実施する感染症対策に関する研究・調査・支援等の取り組みについて学内で提案を募った。それらの取り組みを集約し、本学HP公開等を通じて、学外へ積極的に情報発信している。

■ Contents

[特集1] ウィズコロナ時代の大学の役割を模索	03
[特集2 神大研究ズームアップ] 昆虫の生態研究から広がる可能性	08
[神大生の挑戦] 神戸の学生と企業がつながるきっかけを作り出す-[Re-VOL.]	12
[KOBE教育] EUエキスパート人材養成プログラム「KUPES」の現在	14
[キラリ神大 OG・OB] ディレクターとしてお客様ひとりひとりの「カッコいい」を提案	16
[神大×LOCAL] 「星を見る」生の体験を子供たちに	18
[こんにちは!留学生です] 中国からの留学生	20
[国際ニュース] / [留学だより]	21
[神戸大学基金だより]	22
[Mini News]	23

表紙写真:ロイ・スミス館(旧大谷家住宅)



カメラ:大電 京助

Field 01 「経営学」の視点

Special Topic-1

# 文理の枠を越えた 様々な貢献を

## 神戸大学が取り組む 新型コロナウイルス 感染症に関わる 約50の研究テーマ

神戸大学は感染症の脅威を乗り越え課題解決を図る関連研究・調査等の取り組みを社会に表明し、推進することを使命の一つと考えている。この難局に立ち向かうには、医療だけでなく、科学技術、人文・社会科学、教育支援あるいはボランティア活動など、文理の枠を越えた様々な貢献が求められる。現在、感染症に関する研究、支援等の取り組みについて、

今後はこれらの展開のステージを見極め、研究の加速、社会実装の実現、教育支援等において迅速なアクションを起こすとともに、社会に対してメッセージを発信していく。

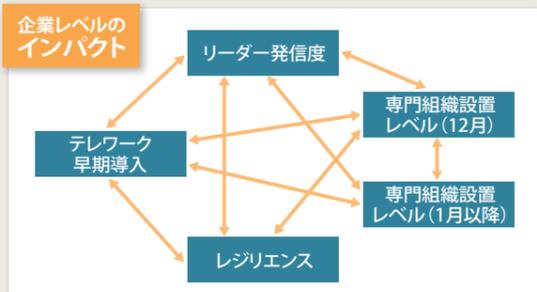
2020年7月には、神戸大学With COVID-19 シンポジウム「新型コロナウイルスと共存する社会を考える」をオンラインにて開催し、神戸大学において実施予定の感染症対策に関する研究・調査等について紹介した。今後はこれらの展開のステージを見極め、研究の加速、社会実装の実現、教育支援等において迅速なアクションを起こすとともに、社会に対してメッセージを発信していく。

今回、神戸大学の4大学術系列(人文・人間科学系、社会科学系、自然科学系、生命・医学系)から、それぞれの分野からの対策等について聞いた。

## 新型コロナ下で表面化した、 レジリエンスというファクターの重要性

私は主に、職場で働く人の心理や行動、それに対して経営に何ができるかを研究対象にしています。経営学と心理学が重なる分野と言えるかもしれません。新型コロナウイルス感染症関連では2つのプロジェクトに携わっています。まず、新型コロナウイルス流行への対応が、就労者の心理・行動に与える影響の調査で、リーダーは経済経営研究所の江夏幾多郎准教授です。これは個人レベルの、ミクロの視点からの調査で、4月と8月にアンケート調査を行い、同じ就労者にどんな変化が見られるかを追っています。一方で、企業レベルの調査、経営学で言えばマクロレベルの調査も、私が主導して行っています。

そこから見えてくるのは、現場に見られる新型コロナの影響には個体差(個人差、企業間の差)があるということです。企業レベルでは規模や業種の違いだけでなく、例えばリモートワークを早くから導入した企業ほど対策・相談窓口をしっかりと設けている傾向があります。対策をする企業は様々な取り組みを実行しているのに対し、対策をしない企業は一つできていない。この差は「新型コロナ流



テレワークを含めた種々の企業対応の間にも相関があり、テレワーク導入が早い企業では、リーダーの発信度合いも高く、専門組織の設置も進んでいる。そしてその核にレジリエンスがある(矢印は相関を表す)。

行以前にどんな組織を作っておいたか」の差であり、組織や人がどれだけ強く、しなやかであるか、つまり「レジリエンス」の差なのです。

同様の傾向は個人レベルでも見られ、心配性で自分に自信を持っていないほど新型コロナによって大きな被害を受け、不安に陥っている、つまり「パーソナリティをはじめ、もともとの特性」による違いが大きいのです。新型コロナがもたらした社会の変化によって、レジリエンスというファクターの重要性が表面化したわけです。

今後は、レジリエンスを高めていく



大学院経営学研究科 准教授  
服部 泰宏 HATTORI Yasuhiro

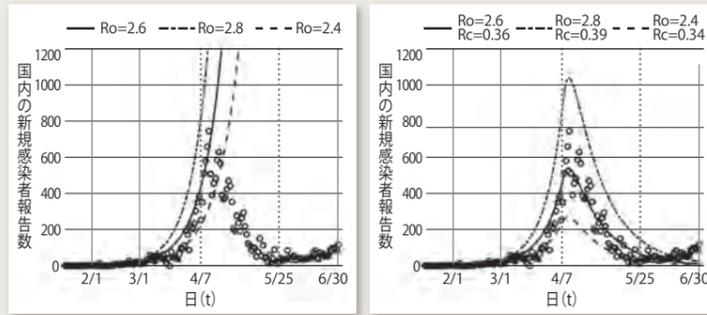
ための議論を始めることが重要です。そこにはいくつかのヒントがあり、例えば、従業員同士が業務以外のプライベートな情報をお互いに知っている職場では、オンライン中心のやりとりでも人間関係がうまくいきます。ある意味で「冗長」な、無駄な情報のオーバーラップを持っていることが、仕事のしやすさにつながっている。効率性だけでなく、こうした冗長性の有無が企業間の差につながっているのだとしたら、そこはやはり作っていくべきです。皮肉なことですが、新型コロナ以前から存在していたのに見てこなかった問題を、新型コロナが明らかにしたわけです。新型コロナに対してポジティブに対応することで、レジリエンスを高めることは可能です。私たち研究者も、データに基づいて現実の意思決定をサポートしていきたいと思っています。

### 新型コロナウイルス感染症対策に関する研究・調査等 (大学ホームページに掲載)

治療法・治療薬	施設・体制	迅速化/高精度化	衛生用品	予測と分析	経済	健康・福祉	政策調査提言	情報発信
レプリコンを用いた薬剤スクリーニング 保健学研究科 亀岡/小瀬	ICU開設 医学研究科 山中/岡田	検査キットプラットフォーム 工学研究科 丸山	新ポリウレタン材料 理学研究科 津田	予測数理モデルシステム情報学 研究科 國谷	家計影響 人間発達環境学 研究科 田畑	座位時間 保健学研究科 井澤	芸術文化支援 国際文化学研究科 藤野	学術情報提供HP 保健学研究科 中澤
自然免疫、インフラマソーム 保健学研究科 駒井	トリアージAI 医学研究科 中井	モノクローナル抗体 医学研究科 船越	消毒液供給 医学部施設管理課 笹部	ウイルス飛沫予測システム情報学 研究科 坪倉	食農影響と価値創造 農学研究科 中塚	睡眠・Well-being変化 人間発達環境学 研究科 古谷	コロナ対策の制度比較・提言 社会システムイノベーション センター 金子	マイクrosoft-リズム 観光産業支援 国際文化学研究科 辛島
ワクチン	医療機器・器具	テラヘルツ波検出 工学研究科 小島	ウイルス除去	経営	経営	発達障害児支援 人間発達環境学 研究科 山根	感染症の倫理学 先端融合研究環 松田	教職員・学生ケア
経口ワクチン 科学技術イノベーション 研究科 白川	3Dプリンタ活用 臨床研究推進 センター 寛	水近赤外吸収 農学研究科 ツエングヴァ	飛散ウイルス撃滅システム 数理・データサイエンスセンター 木村	人々の行動変容と非接触サービスの可能性 経営学研究科 藤原	Withコロナにおける認知症予防 保健学研究科 木戸	環境変化によるストレス 医学研究科 保健センター 青山/毛利	歴史的観点	環境変化によるストレス 医学研究科 保健センター 青山/毛利
免疫応答 科学技術イノベーション 研究科 北川				管理会計とBCP 経営学研究科 三矢	生活変化 ひとり親世帯の食生活 農学研究科 石田	比較都市的研究 人文科学研究科 奥村/白鳥	教育・教材	感染速度論教材 理学研究科 大西
				就業上心理、行動への影響 経済経営研究所 江夏	高齢者リスク 人間発達環境学 研究科 片桐	比較都市的研究 人文科学研究科 奥村/白鳥	教育・教材	家庭食材でできる実験授業 農学研究科 宇野
				中小企業 コンソーシアムVスクール 忍那	外国人生活 人文科学研究科 平井	比較都市的研究 人文科学研究科 奥村/白鳥	教育・教材	空間デザインコンペ グラフィクスリテラシー 教育研究センター 鈴木
				組織対応調査 経営学研究科 服部	行動・生活変化実態 人間発達環境学 研究科 青木	比較都市的研究 人文科学研究科 奥村/白鳥	教育・教材	大学教育のあり方 Vスクール 玉置
					ポストコロナ働き方提言 保健学研究科 塩谷	比較都市的研究 人文科学研究科 奥村/白鳥	教育・教材	附属中卒研 元附属中学校長 藤田
					自費生活が生活に与える影響と要因 保健学研究科 小野	比較都市的研究 人文科学研究科 奥村/白鳥	教育・教材	学内 その他

Field 03

「システム情報学」の視点



感染者数が急増する予測（左のグラフ）に反し、実際には4月中旬から減少に転じた（右のグラフ）。そこから緊急事態宣言下の人の接触率を割り出した。

数理モデルで新型コロナウイルスの感染拡大を予測  
経済への影響も表せる新モデル作りへ

私は感染症の流行を表す数理モデルの研究をしています。主に数理モデル（SEIRモデルなど）の数学的な性質を理論的に研究することが中心ですが、今回、数理モデルを新型コロナウイルス感染症の具体的なデータにあてはめることに興味を持ちました。

まず、2020年1〜2月の感染者数の推移から将来の推移を予測し、結果として1か月半先（4月中旬）まで

の流行動態をかなり正確に予測できました。実は計算上は、夏に大規模な流行のピーク、それぞれ一時期のアメリカやインドで見られたような、1日あたり数万人規模の感染拡大が日本でも起きることを示していましたが、幸運なこととその予測ははずれ、4月中旬から感染者数は減少に転じました。その要因として、4月7日に発令された緊急事態宣言の効果があったのではないかとこの仮説を立てて、それをモデルで検討しました。

まず、感染者数の推移や無症状者の割合、感染してから他者への感染力を持つまでの平均期間などから新型コロナウイルスの感染力を数学的に推定しました。次に、緊急事態宣言下の感染者数の推移を踏まえて、人と人との接触が普段と比べてどの程度減るといった推移になるかを、数理モデルで計算しました。その結果、緊急事態宣言が発令されていた期間の接触率は0.14で、人の接触は普段より86%減っていたという結果になりました。

私は緊急事態宣言発令中に人の接触が減ったことも、感染拡大を抑える上で効果を発揮したと考えています。ただ、感染率の減少を、もう少し広い意味で



大学院システム情報学研究科 准教授  
國谷 紀良 KUNIYA Toshikazu

考える必要があります。つまり、実際に人が8割減ったというよりも、緊急事態宣言によって一人ひとりが人との距離をとったり、マスクを着けたりした効果も含めて、全体として接触率が8割減ったとみなしていいレベルの減少が見られたと理解すべきです。

今後は、5月末以降の感染者数の変化を表すことができるモデルを考えたいと思います。そのためには感染者数の増加を知って人々が気をつけるようになる効果や、逆に感染者数の減少を受けて人々が油断し、行動範囲が広がるリスクも反映して、感染者数に周期的な流行の波ができることをモデルで表現したい。また、緊急事態宣言の発令などにより、経済への影響が大きくなくなったことを踏まえた上で、経済への影響も考慮したような数理モデルを考えていくことも今後の課題です。

Field 02

「臨床ウイルス学」の視点

兵庫県内1万人の抗体検査を実施  
重症化メカニズムの解明から制御法開発へ

私たちの研究室では、ヘルペスウイルスの研究を行っています。ウイルスが病気を引き起こすメカニズムについて分子機構を解明し、最終的に制御法の開発につながる研究です。今までの研究をベースに、新型コロナウイルスについては病院から臨床検体を頂いて、解析をしています。



まず、患者血清を多面的に解析して、患者体内に中和抗体や、炎症を誘導するサイトカインなどの物質が産生されること、そして、重症度の高い患者ほど中和抗体産生量が多いことやサイトカインストームが起こっていることを明らかにし、重症患者においては早期の抗ウイルス治療や重症期の抗炎症治療が重要であることを示すことができました。

また、新型コロナウイルス感染症拠点病院で働く医療従事者500人以上を対象に抗体検査を行い、全員が抗体陰性（感染したことがない状態）であったことから、院内感染に対する標準的予防策が有効であることを確認できました。つまり、医師や看護師も防護をしつかりすれば、患者からの感染は起きないことがわかり、医療現場に安心感を与えることができたのではないかと思います。

さらに、この調査の範囲を兵庫県内全域まで広げて、5つの病院と検診施設の受診者約1万人を対象に抗体検査を行い、感染率を調べました。検査は2020年8月から10月にかけて実施し、ウイルス中和抗体での陽性率は0.15%でした。この値は、基本的に無症候者の割合を示していると考えられます。同時に未感染者も多く注意が必要であることを示しています。この研究は兵庫県と一緒に進めており、兵庫県が働きかけてくれたお陰で各病院の医師や検査部門の協力も得られました。神戸大病院の検査室や研究室スタッフ、学生たちも含め、研究に関わる全ての人たちの団結力にはめざましいものがありました。

私たちが今、重視している研究テーマは、新型コロナウイルス感染



大学院医学研究科附属感染症センター 教授  
森 康子 MORI Yasuko

症が重症化するメカニズムの解明です。このウイルスの問題点は、重症化すると思ろしい症状を引き起こすこと、なぜ若い人に無症候または軽症の人が多くて、高齢者に重症化する人が多いのか、そこを解き明かして、未知のウイルスを既知のウイルスにしていかなければなりません。

今、新型コロナウイルスに対する抗体医薬やワクチン開発研究についても進めています。新型コロナウイルスは新しいウイルスだけに、研究をすればするだけ新しい発見があります。それが治療につながっていくので、やりがいがありますね。

研究者が基礎研究を進めて、エビデンスを積み重ね、それらが診断や治療に還元されていく。私たち臨床ウイルス学の研究者は、そういう形で社会に貢献していくことを目指しています。

「教育・教材」の視点

コロナウイルス感染症により空間デザインは今後パラダイムシフトを迎えると考えられます。そこで、ポストコロナ時代を見据えた「はなれてつなぐ」アイデアを募集する公開コンペ（対象空間：工学部オープンスペース、応募資格：本学学生）を実施しました。審査の結果、空間デザイン部門では最優秀賞1点、優秀賞2点、技術提案部門では最優秀賞1点が選ばれました。受賞案の詳細と表彰式の様子(大村直人工学研究科長より賞状授与)は、グラフィクスリテラシー教育研究センターホームページ (<http://www.research.kobe-u.ac.jp/eng-glec/>) を参照ください。



大学院工学研究科  
鈴木 広隆 SUZUKI Hirotaka

「情報発信」の視点

観光産業はコロナの打撃を最も受けた領域で、現在はマイクロツーリズム（近隣への短期旅行）が再生の手段として注目されていますが、長期的には海外からの個人旅行の取り込みがカギになるといわれています。国際文化学研究科では、グローバルとローカルが交差する文化現象として観光を捉え直すいくつかの取り組みを進めてきました。その中でも、神戸とユダヤ世界の関係を物語る歴史資源の発掘を通じて、ユダヤ人観光客に魅力的なコンテンツを提供することを目的としたプロジェクトは、post/withコロナを見据えた政策課題へのチャレンジとして神戸市（大学発アーバンイノベーション神戸）の助成を受けています。



大学院国際文化学研究科  
辛島 理人 KARASHIMA Masato

「ワクチン」の視点

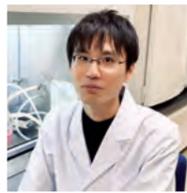
今回の新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミックに対しては、途上国も含めたグローバルな感染制御が必要です。COVID-19 制圧の有力なツールの一つとしてワクチンの開発が大いに期待されていますが、ほとんどのワクチンは注射剤で、針の廃棄の問題など途上国での使用にはあまり適していません。現在、私たちは代表的なプロバイオティクスであるピフィズ菌を用いた経口ワクチンプラットフォーム技術で、汎用性と安全性に優れ、効果も高い経口COVID-19ワクチンの開発に取り組んでいます。全世界の人々に、この新しいワクチンを一日でも早く届けるために国や企業の支援を受けて研究開発を進めています。



大学院  
科学技術イノベーション研究科  
白川 利朗 SHIRAKAWA Toshiro

「治療法・治療薬」の視点

新型コロナウイルス感染症に対する新規治療薬の開発は緊急の課題です。通常、新規治療薬候補の評価には感染性のあるウイルスを用います。しかし、新型コロナウイルスは病原性・感染性が高く危険なため、高度な病原体封じ込め施設（BSL-3実験室）での使用しか認められておらず、治療薬開発の障害となっています。そこで、私たちは新型コロナウイルスの遺伝子を改変し、感染性のないコロナウイルス遺伝子（レプリコン）を構築しました。これにより、新規治療薬の評価が安全かつ簡便に実施可能となりました。今後さらに改良を加えることで、新型コロナウイルスに対する新薬開発の加速が期待されます。



大学院保健学研究科  
小瀧 将裕 KOTAKI Tomohiro

# カエルに捕食されても体内から生還する昆虫を発見 昆虫の生態研究から広がる可能性



マメガムシとは  
鞘翅(コウチュウ)目ガムシ科に属する小型の昆虫で、体長は3.8~5.0mmほど。成虫は水田などで水草などを摂食し、普段は水中を遊泳するが、水面に出て飛翔することもある。

## 昆虫の防衛行動の研究

——生態学とはどんな学問？

一般的には、生物と環境との相互作用の研究と定義されます。私自身は様々な生物種間または同種の個体同士の関係を扱っています。

——生物学との違いは？

生態学も生物学の一分野です。生物学の多くの分野ではDNAなど細胞以下のレベルの研究が行われるのに対し、個体レベル以上を主に扱うのが生態学だと私は考えています。もちろん、生態学でもDNA等を扱うこともありますし、環境中の炭素や窒素の循環を研究することもありますが、生態学の領域は極めて広いのですが、私の研究領域は群集生態学や生物間相互作用、行動生態学といった分野になります。特に昆虫を扱うことが多いので、昆虫生態学という言い方もできるでしょう。

——農学研究科で生態学を研究し、教える意義は？

私が在籍しているのは昆虫多様性生態学研究室です。元々昆虫は農学部で扱われてきました。なぜなら、農業上重要な害虫を制御するために研究されてきたからです。したがって、昆虫学がまず農学部の中にあつて、私は昆虫を材料とした生態学の研究をしているわけです。

——昆虫多様性生態学の研究内容とは？

第一に、まだ正式に学問的な名前がつかない種、例えば新種を記載する分類学。第二に、どういった種が、いかに多様に、地球上もしくは農業生態系に存在するかを記載していく生物多様性科学。第三に、昆虫がどのような生態や行動をとるかを明らかにしていく生態学という分野からなります。例えば、特定のエリアにどんな害虫や天敵が、どんな構成で生息しているかを調べたり、どういった虫が植物の花粉媒介に関わっているかなどを調べます。害虫の個体数が増えてしまう理由の一つとして、あまり天敵に食べられていない可能性があります。ではなぜ、どうやって食べられないで済んでいるのか。私は昆虫が天敵から身を守るための術(防衛行動)に興味を持って研究しています。

——すべてが農業生産に関わるテーマ？

もともとそうですね。実際にはそこから離れて、純粋に昆虫の生態を研究している学生もいます。今回のマメガムシの研究も副産物のようなもので、まあちよつと面白い話として、お茶の間の話題になればいいかなと(笑)。

## マメガムシはいかにしてカエルの体外に出たか

——マメガムシの生態も昔から研究を？

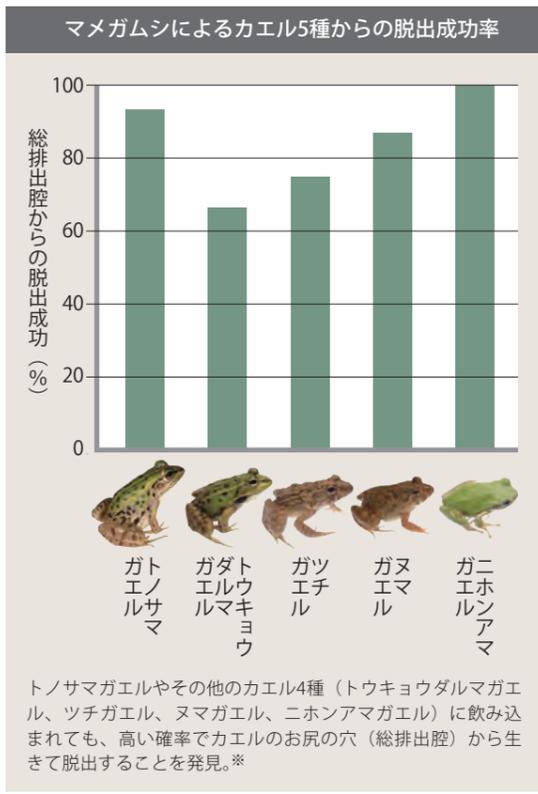
いえ、今回たまたま発見しました。数年前から農地周辺に生息する様々な昆虫類の防衛行動を研究しており、これまでに50種以上の昆虫をカエルに与えて、昆虫がカエルに対してどんな反応をするかを網羅的に調べていたんです。水槽にカエルと虫を一緒に入れて観察します。カエルが舌で昆虫を捕らえるのは一瞬なので、昆虫がどのように防衛・逃避しているのか、どのように食べられてしまうのか確かめるために、動画を撮影し、後からスローで再生して調べています。

——マメガムシがカエルに食べられるから出てくるまでに平均1・6時間かかったそうですが、予め脱出を予測してずっと撮影を？

実は2年ほど前に、カエルに食べられてから数十分後に口から吐き出されて生還する虫を発見していたんです。ミイデラゴミムシという甲虫で、おならというか、お尻から化学物質を出し、カエルが気持ち悪くなって吐き出すような仕向けなんです。その発見があったので、マメガムシも食べられた後、体外に出てくる可能性は想定していました。

——それで動画を撮り続けて、数時間後に発見された？

最初は動画を撮っていなかったん



interviewee

大学院農学研究科 准教授

杉浦真治  
SUGIURA Shinji

京都大学大学院農学研究科を2004年に修了し、森林総合研究所主任研究員等を経て2013年より現職。専門は生態学。在来種と外来種の間接的・種間相互作用に着目した昆虫の生態系機能の解明により、日本生態学会常任委員、日本昆虫学会手塚勲賞を受賞。昆虫類を中心に、植物・鳥類・哺乳類・両生類・菌類・変形菌類など様々な生物との関係を研究している。

カエルに食べられてしまっても、数時間後にお尻の穴から脱出し、そのまま生きて活動を続ける、そんな昆虫を発見した農学研究科・杉浦真治准教授の研究が注目を集めている。※その昆虫とは、上の写真のマメガムシで、本州以南なら水田に普通に見られる小さな甲虫だ。

杉浦准教授はこの虫に限らず、さまざまな昆虫や植物などの生物間相互作用を、生態学の視点から研究している。今回のマメガムシの研究については「昆虫のおもしろ生態の発見」と自ら評すが、食う食われる関係に代表される生物間相互作用の研究は失われつつある生態系の保全・維持につながる可能性を秘めている。また、動植物の形態やその機能を研究することで、それらが持つ構造や性質などを工業製品等に応用するバイオミメティックスの分野で、人間社会に貢献する製品作りに活用されるケースが増えている。様々な可能性を秘めた昆虫研究の一端を、杉浦准教授に聞いた。

※ Sugiura (2020) Current Biology 30: R867–R868



オンラインの学生生活に新たな楽しみ方を提案するアプリ「FAVOR」



・共通点のある学生とつながる  
・学内の個人を検索してメッセージを送る  
・ユーザーを集めてイベントを開催

神大生の挑戦

神戸の学生と企業がつながる  
きっかけを作り出す—[Re-VOL.]

「地元の魅力的な企業と学生をつなぎたい」と、学生への長期インターンの紹介やイベント企画を行う「Re-VOL」を起業した。業界、職種の理解に加え、インターンでは社員に近い仕事を任されて成長を実感できる利点もあるといい、今後の事業拡大などについて、創業者の岸野匡兼さん（CEO・経営学部3年）と岩田智靖さん（共同創業者・経営学部3年）に聞いた。



経営学部 経営学科 3年  
岩田 智靖 IWATA Tomoyasu

「ターニングポイント」という声を聞くとも、やりがいを感じます。逆に大変だったことは、営業に行ったときに長期インターン自体をなかなか受け入れられなかったり、システムの無理と言われたりすることです。僕たちは良いと思って紹介するので、それを否定されたときはショックですが、いつか契約してくださる企業が多くなると、あつたとき断られた企業に自分からやりたいと言ってもらえるまで成長したいと思っています。

**岸野** 今まで一番きつかったのは、コロナの影響で4月から8月頃まで売上が全く立たなくなったことです。流行前には、私たちの事業へ多くの企業に参加してもらっていたのですが、いざインターンの募集をかけようという

タイミングで緊急事態宣言が発令されました。長期インターンには関係ないかと思っていたのですが、参加してもらっていた企業が採用・人材へのコスト削減を余儀なくされ、私たちの会社も打撃を受けました。そのときはメンバーと毎日会って、どんなことをしようか検討を重ねました。一度これだけでやってみようと思っても、またふり出しに戻る。その繰り返しで、やっと自信をもって始められたのが今回のアプリでした。今後はアプリの運用が中心になるかと思っています。

**今後の目標は？**

**岸野** まずはアプリを必ず成功させることです。もつと企業と学生との壁を低くして、学生は自分の進路ややりたいことを見つけ、企業は学生の力を借りて課

**主な事業内容は？**

**岸野** 学生への長期インターンの紹介やイベントの企画、オンラインの学生生活に新たな楽しみ方を提案するアプリの開発などを行っています。コロナ禍以前はインターン紹介の事業のみを行っていましたが、一つの事業だけでは、コロナのような大きな打撃を受けることが起きたときに売上が立たなくなってしまうので、経営の幅を拡げようとして方針転換しました。

**岩田** イベントではインターンの前段階として、企業と学生が集まって会議やマーケティングを行っています。イベントで会った企業と学生の相性が良かったり、考えが似ていたりすれば、そのままインターン採用につながる流れになっています。

**起業したきっかけは？**

**岸野** もともと起業したいと考えていましたが、タイミングとしては大学を卒業して何年か会社で働いてから、というイメージをもって経営学部に入學しました。一回生のときに東京へ行っ

**岩田** イベントの内容も、今は学生が感じている学生生活への物足りなさを、どうすれば充実したものにするかという点から機能を考えていますが、将来的には企業を巻き込んで、イベントの募集やキャリア相談などを行う予定です。

どの事業も、今までやってきたものと基本的な軸は変わりません。学生と企業との敷居を低くして、気軽に会えるような場所を作りたいと思っています。



経営学部 経営学科 3年  
岸野 匡兼 KISHINO Masakane

**最後に高校生や学生へメッセージをお願いします。**

**岸野** 神戸大学はいろいろな選択肢が用意されていて、経営学部にも様々なプログラムがあります。やりたいことがあれば、環境としては何でもそろっていると思います。キャンパスや街並みもとてもきれいですね。

**岩田** 僕も経営学部のプログラムはすごく豊富だと感じます。大学はいろいろなことができる場所なので、やりたいことをやるのが一番かなと思います。

問題を解決する、という仕組みを広めていきたいです。

そして起業する学生を増やし、神戸の経済を活性化させて、そこから日本の経済を活性化させることに尽力したいと思っています。

**岩田** 神戸大学の学生が、自分たちの大学は企業とのつながりが強い、ということを誇りに思えるようになってほしいです。例えば他の大学であれば、スポーツが強かったり、起業家が多かったりと、学生が自慢できることがあると思います。そのためにも、まずは学生がいろいろな企業といろいろなプロジェクトをしている、という認識を広めていきたいです。その先で、企業ともつとこういいうことがしたいといった、自己主張をしていける学生が増えたらいいと思います。

で勉強していたところ、東京では長期インターンシップの取り組みが広がっていることを知りました。そこで神戸で長期インターンに参加したいと思ったのですが、そのとき神戸で長期インターンを実施している企業はほとんどゼロだったので。それでこの事業をやってみようかと考えていたところ、たまたま隣の席で仲良くなった岩田に話したら乗ってくれました。

**岩田** 彼（岸野）の考えを聞いて「それはできるな、やってみよう！」という思いになりました。

**会社を運営するうえで、大変だったことや印象的だったことは？**

**岩田** 学生を紹介した企業の方から「すごくいい学生で、今こういう風になってるよ」とか、学生から「イン

**Re-VOL.Inc.**

社名 株式会社 Re-VOL.  
 代表取締役 岸野 匡兼  
 設立 2019年3月4日  
 資本金 6,000,000円  
 OFFICE 神戸市中央区小野柄通3丁目1-11 芙蓉ビル302  
 URL <https://re-vol.net/company/>

# EUエキスパート人材養成プログラム 「KUPES」の現在

## Kobe University Programme for European Studies

report  
2



法学部  
KUPES 5期生  
**西尾 健吾**  
NISHIO Kengo

大学生の間に留学することを考えていた私にとって、KUPESは最適なプログラムでした。「日欧比較セミナー」では、3年生後期から留学するヨーロッパについて理解を深めます。この授業には多くの留学生も参加しており、親しくなった留学生を通じてヨーロッパの大学事情を知ることができました。春・夏の英語集中コースなど語学面での支援も手厚いため、留学に必要な語学試験のスコア獲得につながりました。

EUフィールドワークでは、約2週間ヨーロッパを訪問しました。トリノにある国際労働機関（ILO）研修センターでのワークショップやブリュッセルでの欧州議会の見学など貴重な経験をえました。同時にヨーロッパの雰囲気や治安、そこに住む人々の人柄など、実際に足を踏み入れることでしか分からないことを学び、留学の心構えを持つことができました。

留学先の英国エセックス大学では、国際関係学や開発経済学を学びました。高いレベルの授業に苦戦することも多々ありましたが、KUPESの授業で英語に慣れ、アカデミック・ライティングも経験していたことが大きく役に立ちました。留学を通して出会った人々はかけがえのない存在です。

これからは海外での経験や、そこで学んだことを活かすことができるような進路を選びたいと考えております。KUPESの授業から留学までを通して経験したことは、大学生生活での大きな財産となりました。

report  
1



国際人間科学部  
KUPES 5期生  
**岩本 巴菜**  
IWAMOTO Hana

KUPESの魅力は、留学を見据えて勉強ができること、そして人のつながりができることです。

KUPESの授業は、留学生を交えた英語でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションを中心に行われるので、日本にいながら留学先での授業を疑似体験し、慣れておくことができます。また、2年生後期にEUフィールドワークに参加し、欧州にある国際機関を訪問し、留学先であるベルギーのルーヴェン大学でも合同ゼミを通じて現地の学生と交流することができました。

人のつながりに関しては、留学生と他学部の学生と親交を結び、さらにコーディネーターの先生とも深く相談できる関係を築くことができたので、KUPESの授業や留学中もたくさん助けていただきました。

3年生後期から1年間、ルーヴェン大学に留学しました。よく学び、よく遊ぶ優秀な学生、有名な教授、質の高い授業がそろっていて、日々、刺激を受けながら学ぶことができました。大学での学びと現地での生活の両方が充実しており、これまでで最も学生らしさを感じた貴重な時間をルーヴェンで過ごすことができました。

現在は、留学中に訪問したベルギー王立中央アフリカ博物館における植民地時代の負の遺産への対応について、卒業論文を書き始めています。

EUエキスパート人材養成プログラム「KUPES」は、国際文化／国際人間科学・法・経済の学部・研究科の学生がEU（欧州連合）を主とした欧州に関して、多面的かつ体系的に学べるように、神戸大学が独自に開発した学位プログラムである。

2014年度に開始し、今年7年目を迎えた同プログラムの現在について、コーディネーターの橋田准教授に聞いた。



国際教育総合センター  
プログラムコーディネーター部門 准教授  
**橋田 力** HASHIDA Tsutomu

——開始当初から変わった点は？

プログラムの内容がより充実したと思います。例えば、外国人教員3名の輪番制によって英語で行われる授業「日欧比較セミナー」は、多くの学生が関心を持つ移民問題や英国のEU離脱などをテーマに加え、日EU経済連携協定（EPA）・戦略連携協定（SPA）による日欧関係の将来も見通した内容となっています。また、交換留学生にとって日本人学生と交流する絶好のチャンスとなっており、抽選が必要になるほど人気があります。グループ・プレゼンテーションやディスカッションなどを組み込んだアクティブ・ラーニング

型の授業を通じて、日本とEUとの次代を担う世代間の交流が日欧関係の発展につながると期待しています。

——その他の特色について教えてください

KUPESでの学びを現地での実体験を通じて深める機会として、欧州での学外学修を含む「EUフィールドワークコース」を実施しています。ブリュッセルでは、欧州議会のグループ見学を始め「写真1」、欧州委員会ベルレモン本部ビル内のノーベル平和賞の展示を見た後に本学に来たことのある若手職員と交流しました。欧州対外行動庁（EEAS）で文民支援部長（元駐日欧州連合代表部公使）から国際紛争後の文民支援について、欧州経済社会評議会では対日コンタクト・グループ代表からEPAに



係る市民社会の動きについて話を伺うことができました「写真2」。ロンドンでは、欧州復興開発銀行（EBRD）の日本人職員から日本人として国際機関で働くことについて伺い（ただし、コロナ感染対策のため現地でオンライン会議に変更）、神戸大学ロンドン同窓会のOB・OGの方々から歓迎を受けました「写真3」。他にも国際労働機関（ILO）トリノ研修センター（イタリア）でのワークショップやルーヴェン大学（ベルギー）での合同ゼミ「写真4」に参加したり、メヘレン（ベルギー）における移民の社会統合に関する聴取や、環境都市フライブルク（ドイツ）の先駆的な都市デザインと再生可能エネルギーに関する取組の視察など、学生が自ら課題を設定して学外活動を行ったりしています。

英語による授業を十分に理解し、欧州での学外学修を行うには語学力の向上が欠かせませんが、そのためにネイティブ講師による春休みと夏休みのアカデミック英語集中コースと夏休みのフランス語・ドイツ語集中コースを無料で実施しています。他にも授業外の学修支援としてティーチング・アシスタント（TA）を交えた自主学習会や留学に関

する個別相談なども行っています。

——プログラムに参加した学生の様子について

プログラムは、学部2年生の前年から始まり、最初は、英語による授業や交換留学生とのディスカッションなどに戸惑うようでしたが、徐々に慣れて留学前には必要となる語学力やスタディ・スキルを着実に身に付けています。学部3年生の後期から1年ないし半年間の交換留学に行きます。多くの学生にとって初めての留学生活であり、さまざまな問題に直面することもありますが、欧州各地に散らばるKUPES生同士の連帯と、SNSやメールなどを活用した神戸からの支援で乗り切っています。交換留学から帰ってきたKUPES生の成長ぶりには目を見張るものがあります。卒業後、官庁や企業、新聞社など多様な進路を歩み、グローバル人材として活躍しています。

また、大学院からKUPESに参加し、本学とルーヴェン大学の双方の大学院でダブルディグリーを取得した例もあります。最近では国際機関や多国籍企業などでの就職を目指して大学院への進学を考える学生も増えており、今後、ダブルディグリーを取得する学生が増えると期待しています。

——「ウィズコロナの時代」を見据えた今後の展開や、求める学生像は？

オンライン国際共修の可能性を検討しつつ、いつ留学が再開されても対応できるように準備を進めています。また、カリキュラムの拡充にも努めています。欧州を一つの起点としてグローバルに活躍したい学生に参加してほしいと思います。応募の際は、志望動機と意欲を重視しており、語学力は入ってから高めることができます。他学部の学生と知り合い、切磋琢磨する中で学際的に学び、世界に視野を広げてほしいと思います。



## ディレクターとしてお客様ひとりひとりの「カッコいい」を提案

工学部建築学科を2019年に卒業し、インターンから現在の会社に入社。現在はリノベーションの営業と社員のマネジメントに従事している山根広大さんに話を聞いた。

**クジラ株式会社**／不動産×デザイン×建築によって生まれる空間や場所を通じて、社会課題を解決する。空き家問題、地方創生、少子化問題、貧困家庭など、様々な課題に“場の創造”を通じてアプローチ。不動産・デザイン・建築の各プロフェッショナルを社内に置いて、本当の「ワンストップリノベーション」を提供。住まい・オフィスのリノベーションのほか、空家を再生したまちごとホテル「SEKAI HOTEL」や、工事代金の1%を利用し、社員が児童養護施設などに向いて子ども達と一緒に出張DIYをする「KUJILIKE」なども行っている。

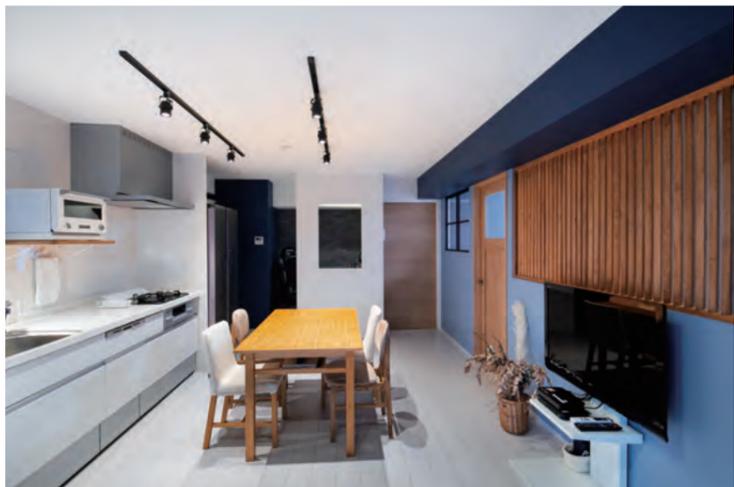


「どのような学生生活を過ごされたのですか。」

課外活動に重きを置いた学生生活でしたね。入学当初から1年半、生協学生委員会（通称G1）に所属していました。G1では「学生目線でいかにして利益を還元するか」という課題への取り組みを通して、企画作りのプロセスを体得することができました。ただ、大組織ゆえにルールの中でしか活動を行うことができないため、新しいことを生み出すには向いていないと思います。退部しました。

G1を辞めてから1年間は、一番勉強した期間だと思います。そうして勉強を続けていくうちに、あることに気づいたんです。僕がやりたいことは、授業で学ぶことは難しいんだなって。

建築学を専攻していたのですが、その基本姿勢は、構造や環境、法律などの分野を分担して一つの大きな建物をつくり上げるというものでした。でも僕は、全てをくまなく勉強して、十分に理解した上で作るという工程、いわゆるディレクションがやりたかった。同時に建築は不動産の上に成り立っていて、なんで不動産と建築ってこんなに明確に分かれてるんだらう、という疑問もありました。そこで、実際にまだ触れたことのない



実際にディレクションした案件の写真

不動産業界を知るため、1年間の休学を決めたのです。

——その時に、現在の職場も訪問されたのですか。

そうです。クジラではインターン生だけで民泊の会社を運営しました。僕は主にディレクションに携わっていました。

ちょうど民泊が規制され始めた時代でしたので、会社は宿泊業へと事業転換をしました。そうしてできたのが「SEKAI HOTEL」です。僕は立ち上げメンバーとして、事業構想を形にしていこうと腐心しました。空家を見つけ、持ち主を探し出して、交渉して……と、事業の立ち上げが、いかに地道な工程の積み重ねであるかを学んだ時間でしたね。

——「SEKAI HOTEL」とは、具体的にどのような事業なのでしょうか。

一言でいえば、「まちごとホテル」です。全機能が別個の建物に分散されているのが特徴です。駅に到着したお客さんは、駅近くの建物にあるフロントでチェックインします。そこから、スタッフが宿泊部屋のある別の建物まで案内します。食事は街の飲食店で、お風呂も街の銭湯を利用していただきます。そのような「まち全体で1つのホテル」を、大阪の西九条と布施で展開しています。

——入社の決め手は何ですか？

2つあります。1つは自分のタイプと合っていたことですね。僕はしたいことが山ほど出てくる性格なので、それらを手広く扱える会社がいいなと思っていました。クジラは、中核事業である不動産に建築・デザインを組み合わせることで社会課題の解決を図る企業です。だから、解決できることが多く、新しいことにも挑戦しやすいのです。

2つ目は、クジラが成長途中の企業だということですね。第1創業期のさなかにあり、メンバーも若い人が多いので、これから伸びるのが目に見えていますし、自分たちで伸ばしていくこともできます。企業成長の当事者となることに魅力を感じました。

——仕事のやりがい？

住宅購入では、まず物件を探すところから始まって、物件が決まったら工事の話を進めていくのですが、とにかく決める

ことがたくさんあります。たとえば、床材や壁紙、照明、これら一つひとつ、種類や色、配置などを決めなければなりません。その話し合いの中で、お客さんの理想を汲み取って、そこに近づけるよう提案します。自分の中で「これがこの人にとってはいいだろうな」と考えて提示した案をすごく喜んでくださったたり、「山根さんがおらんかったら不動産を買ってなかった」と言っていたりしたとき、この仕事をしていてよかったなと思います。

——今後の目標についてお聞かせください。

住宅購入は人生の一大イベントです。人生には波がありますが、波でいうと山の部分に相当すると思います。今後はその山の部分だけではなく、ライフプランのような、もっと全体的なところに携わりたいです。「今〇歳で、預貯金はいくらあって、その中で住宅に使える費用はこれくらいだから、こういう内容にしましょう」というように、不動産・建築・デザインに加えて、ローンや保険などの知識を交えながらトータルでサポートしたいと考えています。お客さんがあちこちに尋ねる負担を減らすためにも、住まいのことならクジラに相談すれば安心、といった形にするのが理想です。

——最後に、神大生や高校生に向けたメッセージをお願いします。

みなさんには多くの選択肢がありますよね。でも、それらを検討する時間には制



インタビュー 学生広報チーム 正中 麻侑生 文学部人文科学2年 SHONAKA Mayuki



アストロノミア広報  
田村 笙 理学部惑星学科3年  
TAMURA Sho



アストロノミア代表  
浦川 翔平 工学部機械工学科3年  
URAKAWA Shobei

# 「星を見る」生の体験を 子供たちに

小学校で開催する天体観測会を企画・運営し、子供たちから星の世界や理科全般への関心を引き出す活動をしている、天文ボランティア「アストロノミア」。神戸市民と専門家との対話の場を作ることに伴って、地域社会の人々が科学に親しめるよう支援する「神戸大学サイエンスシヨップ」の枠組みの中で2009年度に発足し、学生主導で活動を展開している。「望遠鏡で星を見る」という体験を子供たちに提供する魅力を、コロナ下での活動を模索する代表の浦川翔平さんと広報担当の田村笙さんに聞いた。

## ★ 小学校で天体観測会を開催

— アストロノミアの活動内容は？

浦川 小学校へ出向いて、子供たちと天体観測会（観望会）を開いています。

田村 神戸大学には天文研究会などのサークルがあり、ボランティア団体もありますが、アストロノミアはそれらを融合したような形で、理系分野からも文系分野からも参加しやすい点がユニークなところですね。

— ボランティア団体なのですか？

浦川 そうですね。小学校にお邪魔して、子供たちに望遠鏡で星を見せて、その説明をしたり、理科全般に興味を持ってもらうための活動もしているので。メンバーは特にボランティアを意識しているわけではありません。

— 運営は学生だけで？

浦川 伊藤真之先生（人間発達環境学研究所）がサポートしてくれますが、基本的に

— でも、開催日に空が晴れるかどうかはわからない。

浦川 そこは本当に運頼みで……。実際に当日、雲が多くて星が見えないこともあります。そういう場合は星の話や、星座にまつわる神話の話をすると、子供たちは喜んでくれます。少しでも星が見えていけば、予定とは違う星に望遠鏡を合わせたり、子供たちへの説明内容を変えたりと、臨機応変に対応します。そのためにも「この時間帯にはどの方向にどんな星があるか」を事前に皆で確認しています。

— 子供たちが一番喜ぶポイントは？

浦川 月や星雲の観察が人気ですね。土星の輪が見えたときはすごく喜ばれました。

田村 そういうときは保護者の方もすごく喜んでくれます。広報担当の私は、観望会の様子を写真に撮って、SNSにアップしています。

## ★ 「生の体験」を子供たちに提供したい

— 理系のお二人が専門的な天文サークルではなく、アストロノミアを選んだ理由は？

田村 もちろん、星には興味がありますが、それよりもイベント企画や資料作成などをやってみたかったです。子供たちに見てもらった資料やスライドは、皆で分担して作っています。スライドには星座の写真や、神話をわかりやすく説明するための画像を入れ、それらを動かして、楽しい説明に仕上げています。

浦川 アストロノミアは、あくまでも有名な天体を対象に「どうすれば小学生に興味を

は企画を考えて、小学校にアポイントメントを取って、計画書を提出して学校側と交渉し、観望会当日の運営を行う、という流れをすべて学生で行っています。

— 皆さんの方から小学校に働きかける？

浦川 小学校からオファーをいただくこともあります。主に大学近隣の小学校で開催しており、鶴甲小学校では毎年開催させてもらっています。アストロノミアの先輩が小学校の先生をしていて、その小学校に呼ばれて観望会を行うこともあります。

## ★ 天候に応じて臨機応変に運営

— 小学校の先生は、生徒を夜間に集めることに抵抗があるのでは？

浦川 そこは先生方と最もよく話し合いをするポイントです。あまり遅くならないよう、夕方6時から観望会をスタートし、遅くとも8時には完全撤収します。夏場だとまだ空が明るい時間なので、基本的にはその時間帯でも星がよく見える時期を選んで提案します。小学校の観望会では、月の観



ミーティング風景



アストロノミアメンバー

持つてもらえるか」「子供にわかりやすく説明するにはどうしたらいいか」を考えると、メインのサークルなんです。そこには文系も理系も違いはありません。星が好き、子供が好きなど、メンバーの興味の対象がそれぞれ違うことが、団体としての分業がうまくできる理由でもあります。

田村 小学校での観望会のほかに、アストロノミア内で、望遠鏡を操作する練習を兼ねた観望会も定期的に行っています。そのときにメンバー間で話をしたり、閉会後に食事に行ったりすることも楽しみです。ただ、今年は新型コロナウイルスの影響で、普段の活動すら難しい状況ですが。

浦川 コロナの影響で新入生の勧誘ができなかったため、メンバーは現在、10人前後に減っています。今年はほとんど観望会ができいていませんし、この冬は小学校での観望会は無理かもしれません。

— オンラインイベントは？

田村 先日、オンラインで行うプラネタリウムや星空観察会の開催に協力してくれないかというオファーがありました。

浦川 オンラインでの活動にシフトする必要は感じていますが、やはりアストロノミアの魅力は、実際に小学生と会ってやりとりをして、実際に望遠鏡を触ってもらったり、生の体験を大事にするところにあるんです。それだけに今年は厳しいのですが、メンバー内の観望会はそろそろできると思っています。またそこから始めていきたいと思います。興味のある方はぜひ参加してください。

## オンラインによる短期日本語研修プログラムが開催されます

本学国際教育総合センター留学生教育部門では、2021年1月6日～27日の3週間、オンラインによる短期日本語研修プログラムを開講します。

同部門では、2019年度に「神戸日本語プログラム」と冠したプロジェクトを立ち上げ、2020年1月に短期の新規日本語研修プログラムを開講しました。このプログラムは「Discover Japan-Australian つながり in Kobe」をテーマとし、日本語だけでなく神戸や周辺地域、そしてオーストラリアとの関係について学ぶもので、オーストラリアとニュージーランドの大学から15名の参加がありました。



その内容をベースに、2020年度も同プログラムを開講することを計画していましたが、世界的な新型コロナウイルス感染拡大に伴う入国制限等の措置により、見直しを迫られました。学内では新規の交換留学生の受け入れがほぼ中止されていましたが、国際教育総合センターでは新たな留学生受け入れの形を模索しようと、同プログラムをオンラインにより開講することを決めました。海外の日本語学習者にとって、現地で学べるからこそが日本留学の大きな魅力であり、オンラインでの「留学」プログラムに果たしてどれほどの需要があるのか不安でしたが、幸い必要数の応募者が集まり、無事開講できる見通しです。

2020年度も、日本語の授業のほか、神戸地域について学ぶための「地域研究」の時間を設けており、地元の水道筋商店街や、神戸の観光名所のヴァーチャルツアーを行うことなどを企画しています。また、できるだけ「リアル」なインタラクションの場を提供できるよう、本学学生との交流活動も予定しています。

この留学を通して、私は「やってみたい」とも得られない」ということを学びました。勉強の話にもアルバイトの話にも通じることが、新しいことに挑戦する前に失敗を恐れて臆病になってしまう自分がありました。でも、思い切って挑戦してみたことで、授業の先生から詳しいアドバイスももらえたり、英語を使って働くという経験ができた、想像を超える貴重な経験ができたことがありました。もちろん、失敗もたくさんしましたが、失敗さえも学びで、自分の成長につながっていると考えられるようになりました。留学を通して得た学びや経験はこれからの自分の財産になると思います。ぜひ留学に挑戦し、新しい学びや経験を得てみてください！



夏のクリスマス

留学期間：2019/7-2020/6（1年間）  
※コロナの影響で3月下旬に帰国したが、帰国後はオンラインで留学継続



自信を持てるようになりました。

私はオーストラリアのウーロンゴン大学で約1年間の交換留学をしました。留学を指すきっかけとなったのは、大学一年生時に参加したニュージーランドでの語学研修です。この研修で、外国人とコミュニケーションをとる面白さや伝えたいことを伝えきれないもどかしさを初めて感じ、語学を上達させたいという思いで交換留学を指すことを決意しました。

ウーロンゴン大学では私の専攻である公衆衛生の授業を中心に受講しました。英語での授業は理解しづらく難しかったですが、私なりに頑張っただけでも多く理解しようとしたり、学校のアカデミックサポートを積極的に利用したりして、多くの方に支えられて乗り切りました。また、夏休みにはレストランでのアルバイトにも挑戦しました。英語を使って働くという経験を通して自分の英語に自信を持てるようになりました。

留学だより  
オーストラリア・ウーロンゴン大学へ交換留学  
国際人間科学部 発達コミュニケーションイニシアチブ 4年生 秦泉寺 香乃  
JINZENJI Kano

## 次世代のための基礎研究 —動物の体を作り出すしくみを知る—

### Q 神戸大学に来る前はどんなことを？

かなり前の話ですが、『パラサイト・イヴ』という本を読んで、動物の細胞の仕組みがいかに絶妙で、遺伝子から行動へ、という法則にどうやって辿り着いたのか、ということに興味をもちました。

それがきっかけで、進化について学びたいと思い、県立広島大学で動物の進化の研究をしていました。モデル生物は「カブサスボラ」という、多細胞生物である動物に最も近縁な単細胞生物の一種です。そして進化の研究をするうえで、基礎知識として動物の発生の研究をしたいと思い、自分の興味に合った研究が行われている神戸大学に入学しました。

### Q 大学ではどんな研究をされているんですか？

理化学研究所で、キロショウジョウバエを用いた発生学、形態形成のしくみを研究しています。具体的には、感覚受容体の表面にある、ナノ構造の形成メカニズムの研究です。例えばモルフォ蝶のあの美しい羽は、表面に厳しく規則正しい構造に制御しなければ均一に青く見られません。しかし、いきなりモルフォ蝶のナノ構造を研究するには、技術上様々な問題があります。そこで、まずはモデル生物であるショウジョウバエを用いて実験を行っています。

以前研究していた単細胞生物とは違い、ショウジョウバエの培養は部屋の温度を保ったり、三日間で瓶を変えたりと、目が離せず大変です。

### Q 日本に来て驚いたことは？

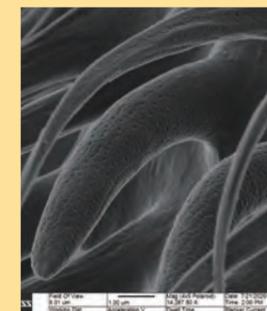
街がきれいだと思います。地元では街なかにゴミ箱がありますが、日本はゴミ箱がなくてもきれいに保たれていることに驚きました。

また、他の国にも何度か行ったことがありますが、どこと比較しても日本はとても安全ですね。

### Q 今後の目標は？

研究の道を進みたいと考えています。進化が大きなテーマになりますが、単細胞生物がもつ多細胞生物の分化に必要な遺伝子が、どのように単細胞生物で働いているのか、ということに興味があります。その仕組みが解明されれば、多細胞生物の分化の仕組みが少しずつわかってくるのではないかと思います。

研究の拠点を定めるつもりはありません。場所を先に探すよりも、まずは自分が最後までやり遂げることができるか、という研究の内容を優先したいと考えています。



ショウジョウバエのナノ構造



2018年5月留学時のシドニー



留学先のキャンベラ大学



ジャワ島のブランバナン寺院にて

世界各国から来た約1400人の留学生が神戸大学で学んでいます。このコーナーでは、母国の文化や習慣などの話を交えながら、国境を越えて頑張っている留学生にスポットを当てます。

## こんにちは！ 留学生です



### 孫 正寛 SUN Zhengkuan

理学研究科 博士課程前期課程 生物学専攻2年  
中国の山東省青島市出身。趣味は旅行と電子キーボード。過去にイギリスやオーストラリアへも留学している。日本食では刺身がお気に入り。



中華人民共和国

出身地：青島市  
山東半島の南端に位置する港湾都市。人口は約950万人。ドイツ占領時代の建造物が多く残され、景色や文化など独特の雰囲気をもつ。軽さと苦みの少なさが特徴の青島ビールが有名。

# Mini News

## Web オープンキャンパスを開催!



今年のオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Web上での開催となりました。特設サイトにて、各学部の特長、研究室紹介、模擬講義の様子を動画で紹介しています。

Web開催することで、遠方からも気軽にご参加いただけるイベントとなりました。

特設サイトは今年度末までご覧いただけます。

Web オープンキャンパス  
特設サイト



アクセスは  
こちらから。

## 『神戸大学統合報告書 2020』を発行しました

10月、神戸大学では、昨年度に続き、2020年度の統合報告書を作成しました。

今年度は、「世の中を変える」、「人を育てる」、「地域に根ざす」という3つの柱組みに沿って、大学の事業活動を紹介しています。また、with/postコロナ時代において大学が果たすべき役割等に焦点をあて、神戸市長と神戸大学長との対談や特集記事を掲載しています。

統合報告書は大学ホームページで公開中です。作成メンバーの活動の軌跡を記載した広報誌もご覧いただけます。WEBアンケートを行っておりますので、ぜひご一読いただき、ご意見をお聞かせください。



A4版 本文67ページ

アクセスは  
こちらから。

統合報告書  
WEBパンフレット



WEBアンケート

## シンダイシンポ 2020 を開催しました



11月21日(土)、統合報告書の今年度発行に併せて、第二回統合報告書発行報告会「シンダイシンポ 2020」をオンラインで開催しました。

シンポジウムでは、神戸大学からは武田学長と若手職員が、それぞれ「神戸大からのビジョン発信」「神戸大の統合報告」と題した講演を行いました。また、ゲストには、ネスレ日本株式会社前代表取締役社長兼CEOで「ネスカフェアンバサダー」「キットカットの受験生応援キャンペーン」など数々の「新たな価値」を生み出してきた高岡浩三氏、本学学外理事で株式会社上野流通戦略研究所代表取締役の上野祐子氏をお招きしました。ダイアログ(対話)では、「神戸大と価値創造コロナ禍での挑戦」をテーマに、コロナ禍における「神戸大の『価値創造ストーリー』」「大学に求められているもの」を中心に関連な議論がなされ、有意義なシンポジウムとなりました。

読者の皆様へアンケートのお願い「スマホ用“うりぼーカレンダー”壁紙”プレゼント中!”裏面をご覧ください。

神戸大学広報誌『風』16号をお読みになったの感想をお聞かせください。今後の誌面作りの参考にさせていただきます。

1.どの記事に関心を持たれましたか 2.その記事についてどのような感想を持たれましたか 3.今後読みたい記事 4.その他何でも感想を

アンケートの回答は神戸大学広報課のメールアドレスにお願いします。

✉ ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp

※ご職業、年齢を書き添えていただくと幸いです。

WEBフォームもありますので  
スマホから今すぐアクセス!



日々更新中!



## 神戸大学基金だより

よろしく  
お願いします



## 神戸大学ダイバーシティ基金

神戸大学基金には学内の様々な取組みを応援する用途特定事業がございます。今回はその中から「ダイバーシティ基金」をご紹介します。

本学では、2018年度の文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(先端型)」の採択を受け、女性研究者の海外派遣を中心とする取組実施など、女性教員の上位職への昇任比率及び在籍比率・採用比率の向上を目指して活動を展開しています。

皆様方におかれましては、本事業の目標と活動をご理解いただき、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本学のダイバーシティ推進に関する取組みは、ウェブサイトをご覧ください。



どうぞよろしく  
お願いいたします!

神戸大学男女共同参画推進室キャラクター Dr.ウーリー、うりちゃん

## 新型コロナウイルス感染症対策緊急募金 ~御礼とご報告~

学長緊急メッセージにより2020年5月1日から広くご協力をお願いいたしました「神戸大学基金新型コロナウイルス感染症対策緊急募金」は、支援を必要とする内容と金額の大きさから、募金期間を当初の9月末までの予定から12月末までに延長しました。学内外の皆様方から多大なるご篤志をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

おかげ様で、学生への支援として

- 経済的支援を求める学生約930人に対し1人あたり5万円、合計約4,600万円を給付
- 留学先から急遽帰国するなど臨時費用が発生した約130人への見舞金として、合計約530万円を給付

医学部附属病院への支援として

- 車椅子型空気感染隔離ユニットの導入など、病院内の設備と環境の整備

に活用させていただきました(2020年10月末時点)。

給付を受けた学生からの御礼の声も多数届いております。その一部をご紹介します。

給付を受けた学生からの感謝のこぼれ

- ご支援いただいたことで学生生活を継続することができます。本当にありがとうございます。支えてくださる皆様への感謝を忘れず、これからもますます勉学に励みたいですね。
- 夢見ていた留学が志半ばで中止となってしまい、精神的にも辛い中で、帰国に伴う追加費用で経済的にも圧迫されていたのですが、皆様の温かいご支援により、無事に帰国し、現在は再び神戸大学で学業に励むことができいております。本当にありがとうございました。

なお、学生への経済的支援、医学部附属病院への支援等は、今後も継続して行ってまいります。

引き続き神戸大学基金の各事業(基盤事業:大学全般、修学支援事業:困窮学生への経済的支援、医学部附属病院あじさい基金:病院支援、等)へのご寄附を通じて、ご支援いただけたら幸いです。

2022年は、神戸大学のルーツのひとつである神戸高等商業学校の創立120周年にあたり、「神戸大学創立120周年記念事業募金」も募集を開始しております。さらなる飛躍に向けて、今後とも本学へのご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願いたします。

詳しくは神戸大学基金のウェブサイトをご覧ください。

神戸大学基金へのご寄附は、確定申告を行っていただくと税制上の優遇措置を受けることができます。

神戸大学基金 検索

